

2020年9月15日

## LEXUS DESIGN AWARD 2021 の全審査員・メンターが決定

世界的に著名な審査員・メンター陣が、より良い未来を創造する若き才能をサポート

LEXUS は、全世界の若手クリエイターを対象に現在応募受付中の国際デザインコンペティション「LEXUS DESIGN AWARD 2021」の全審査員・メンターが決定したことを発表しました。



(左から) 審査員：パオラ・アントネッリ氏、ドン・ゴン氏、グレッグ・リン氏、サイモン・ハンフリーズ  
メンター：ジョー・ドーセット氏、マリアム・カマラ氏、サビーヌ・マルセリス氏、スプツニ子!氏

審査員として新たに参画するのは、建築家ドン・ゴン氏と建築家でありロボット会社ピアジオ・ファストフォワードの最高経営責任者のグレッグ・リン氏です。ドン氏は、河北省秦皇島市（中国）の海沿いに建つ図書館「Seashore Library」をはじめ、周囲の景観との調和を重視した独創的な作風で知られ、国際的にも高い評価を得ています。リン氏は、建築とデザインが社会に与える影響を再構築するために、常に新しい手法の実験や革新をもたらす手段としてテクノロジーを利用し、あらゆる要素を有機的に結び合わせた空間を創造しています。新たに加わる 2 名の審査員のほか、過去にも審査員を務めたニューヨーク近代美術館（MoMA）建築・デザイン部門のシニア・キュレーターであるパオラ・アントネッリ氏、LEXUS のグローバルデザインを統括するサイモン・ハンフリーズを含めた 4 名が、今回審査を担当します。

審査員陣は、より良い未来を築くために LEXUS が重視する 3 つの基本原則「Anticipate（予見する）」「Innovate（革新をもたらす）」「Captivate（魅了する）」をいかに具現化しているかを基準として応募作品を審査し、次世代を担うクリエイターを育成・支援することを目指します。今回初参加となるドン氏は、「本アワードに審査員として参加することで若きクリエイターたちがどのように世の中を見ているのか、私自身も学ぶことができると思い参加を決めました。新進気鋭のデザイナーたちが生活様式の変化した世界の中で、どのようなアイデアを出してきてくれるか楽しみです。」とコメントしました。

また、リン氏は「以前から本アワードの活動を見てきましたが、受賞者のデザインと文化的課題を結びつける力には感銘を受けていました。参加者のビジョンや価値観、メンターの洞察力、他の審査員の視点から多くを学ぶ機会でもあり、社会的な不平等、経済的な不安、気候変動、健康被害など、デザインによって取り組むべき課題が増えており、今回の参加は私自身にも良い刺激となるでしょう」と述べました。

全世界の応募作品から選抜されるファイナリスト 6 組は、メンタリングワークショップを皮切りにデザインの各領域の第一線で活躍するメンター陣との対話を積み重ねながら自身のデザインアイデアをプロトタイプ化し、最終審査に臨みます。今回新たなメンターとして、テクノロジーによって変化する人間や社会の在り方を反映させた斬新な映像作品やマルチメディアインスタレーション\*で知られるスプツニ子！氏が参加します。先日発表された、ジョー・ドーセット氏、マリアム・カマラ氏、サビーヌ・マルセリス氏の 3 名に加わる形で、6 組のファイナリストをメンターとしてサポートします。

2021 年春頃に行われる最終審査会でファイナリストたちは自身のアイデアをプレゼンテーションし、審査員による厳正な審査を経て、6 作品の中から LEXUS DESIGN AWARD 2021 のグランプリが決定されます。

LEXUS DESIGN AWARD 2021 は、10 月 12 日（月）AM 6:59 まで、アイデアの応募を受け付けています。

LEXUS DESIGN AWARD 公式ホームページ：[https://lexus.jp/brand/lexus-design/design\\_award/](https://lexus.jp/brand/lexus-design/design_award/)  
公式ハッシュタグ：[#LexusDesignAward](https://twitter.com/LexusDesignAward)

\* ひとつ以上の異なる媒体を使って、空間・立体的に構成された美術作品

**■ LEXUS DESIGN AWARD 2021 募集概要**

タイトル	LEXUS DESIGN AWARD 2021
応募期間	2020年6月30日（火）～10月12日（月）AM 6:59
審査基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Anticipate（予見する） コンセプトやデザインが社会や個人のニーズを予見するものであるか</li> <li>■ Innovate（革新をもたらす） 新規性と独創性を有しているか</li> <li>■ Captivate（魅了する） コンセプトならびに作品としてのアウトプットが人々を魅了するものであるか</li> </ul>
審査員	パオラ・アントネッリ氏 ドン・ゴン氏 グレッグ・リン氏 サイモン・ハンフリーズ
メンター	ジョー・ドーセット氏 マリアム・カマラ氏 サビーヌ・マルセリス氏 スプツニ子！氏
受賞カテゴリー	「LEXUS DESIGN AWARD 2021」ファイナリスト 6 作品 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファイナリスト 6 作品</li> <li>・グランプリ 1 作品（ファイナリスト 6 作品から選出）</li> </ul>
賞典*1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファイナリスト 6 組に、様々な分野で活躍するクリエイターによるメンタリング制度を提供、プロトタイプ制作をサポート。</li> <li>・ファイナリスト 6 組をメンタリングワークショップ またミラノデザインウィーク 2021*2に招待</li> <li>・最大 300 万円をプロトタイプ制作費として支援。</li> <li>・2021 年 4 月にミラノデザインウィークにて、プロトタイプ 6 作品を展示。（2021 年 1 月～3 月頃の期間にプロトタイプを制作）</li> </ul> <p>*1. 賞典の内容や開催場所は変更になる可能性があります。 *2. 個人・グループ応募に関わらず 1 名を招待</p>
主催	Lexus International
応募方法	下記サイトから応募 <a href="https://lexus.jp/brand/lexus-design/design_award/">https://lexus.jp/brand/lexus-design/design_award/</a>

## ■LEXUS DESIGN AWARD について

2013 年に創設された LEXUS DESIGN AWARD は、世界中の新進気鋭のクリエイターに焦点を当てる国際デザインコンペティションです。より良い未来を形成する力を持った作品を制作するデザイナーやクリエイターを支援することによって、社会に貢献するアイデアを育むことを目的としています。同賞は、世界的に認知された一流のデザイナーをメンターとして、提案したデザインのプロトタイプ化に取り組む貴重な機会を 6 組のファイナリストに提供しています。

## ■LEXUS DESIGN AWARD 2021 審査員プロフィール

### パオラ・アントネッリ (Paola Antonelli)

ニューヨーク近代美術館 (MoMA) 建築・デザイン部門シニア・キュレーター



ニューヨーク近代美術館 (MoMA) 建築・デザイン部門のシニア・キュレーター兼研究開発部門責任者。デザインが世界に好影響を与えることが一般的な理解として浸透することを目的に活動している。デザイン、建築、アート、科学、テクノロジーを融合し、見過ごされがちなモノや習慣を含む日々の生活におけるデザインの影響力を追求する。これまでに多数のイベントのキュレーション、本の執筆、世界各地での講演を行う。過去、ハーバード大学やカリフォルニア州立大学ロサンゼルス

校などで教鞭を執った。2019年の第22回ミラノ・トリエンナーレ (本展示会で開催された「Broken Nature」では同氏が人と自然・生態系のバランスを修復するデザインをキュレーション) に続き、建築家ネリ・オックスマンの作品展示会「Material Ecology」を MoMA で開催。

現在は、MoMA R&D サロンの新セッションのほか、デザイン評論家のアリス・ローソンと一緒に Instagram アカウント@design.emergency を開設し、COVID-19 のパンデミックにおけるデザインの役割をテーマにした活動に取り組んでいる。

### ドン・ゴン (Dong Gong)

建築家 / ヴェクター・アーキテクツ代表・創設者



2008年にヴェクター・アーキテクツ創設。以来、ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展「2018 FREESPACE」をはじめ、多様な展示会で作品を発表し、世界的な評価を高めている。その功績として、アメリカで発売されている建築とインテリアデザイン専門誌である ARCHITECTURAL RECORD が授与する「Design Vanguard」(2014)、「the Overall Winner of Italian Archmarathon Awards」(2016)、「Swiss Architectural Award」(2018)、さらにデザイン誌 Domus が選出する「100+ Best Architecture Firms」(2019)の受賞など国際的な賞を数多く獲得している。

また、大学や学術機関、専門機関などでゲストスピーカーや評論家として登壇することも多く、清華大学 (中国)、イリノイ大学 (米国)、スイス連邦工科大学チューリッヒ校、フランス建築家協会など世界中で活動。

2019年にヴェクター・アーキテクツは、著名な建築ジャーナル AV Monographs にて「Cosmopolitan Vernacular」(vol.220)と題した研究論文を発表した。

代表作品には、「Seashore Library」「Seashore Chapel」「Alila Hotel in Yangshuo」「the Renovation of the Captain's House」「Changjiang Art Museum」そして「Suzhou Intangible Cultural Heritage Museum」などがある。

## グレッグ・リン (Greg Lynn)

建築家／ピアジオ・ファストフォワード最高経営責任者



グレッグ・リン・フォームの創設者兼オーナーであり、ロボット会社ピアジオ・ファストフォワードの共同創設者兼 CEO。高性能ヨットやロボットのほか、Vitra、Alessi、スワロフスキー、Nike などのブランドとのコラボレーションで家具や消費者向け製品のデザインも手がける。

数多くの企業の役員や諮問委員会の委員や、カナダ建築センターの評議委員会で委員を務める。

2008 年のヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展で最優秀賞の金獅子賞を受賞、また、同建築展のパビリオンにアメリカ代表として 2 度出展。その他の主な受賞に「American Academy of Arts and Letters Architecture Award」(2003) や United States Artists からのフェロシップ授与 (2010) などが挙げられる。また、ウィーン応用美術大学教授、カリフォルニア大学ロサンゼルス校教授、2000 年から 2016 年までイェール大学ダヴェンポートカレッジ教授、チューリッヒ工科大学教授、コロンビア大学非常勤講師、ハーバード大学デザイン大学院 (GSD) 客員教授などで教鞭を取っており、9 冊の著書も執筆している。

## サイモン・ハンフリーズ (Simon Humphries)

Head of Toyota & Lexus Global Design



LEXUS のグローバルデザインを統括する立場にあり、日本の文化・伝統を取り入れながら人々を魅了するデザインの方向性を構築し、ブランド哲学という形でブランド独自の価値を策定している。

1988 年に英国王立技芸協会の製品デザイン部門での受賞をきっかけにソニーに入社。在職中に日本でデザイナーとして働くこと・生活することに魅了される。

1994 年にトヨタ自動車入社以来、デザイン領域でリーダーシップを取り、LEXUS ブランドのアイコンとなったスピンドルグリル構築の一翼も担う。2016

年に ED2 (Toyota Europe Design Development) の社長に就任、「自動車会社」から「モビリティカンパニー」へと移行するなかで、トヨタ e-Palette コンセプトなど将来モビリティデザインに着手。

2018 年に帰国後、デザインの領域長としてトヨタ・LEXUS 双方のデザインの指揮を執っている。プライベートでは日曜大工を楽しみ、100 年前の日本農家の復元にも挑戦している。

## ■ LEXUS DESIGN AWARD 2021 メンタープロフィール

### ジョー・ドーセット (Joe Doucet)

デザインエンジニア／ジョー・ドーセット X パートナーズ代表



デザイナー、起業家、発明家、クリエイティブディレクターとして、現在アメリカで最も人気のあるクリエイターの一人。ドーセット氏はイノベーションや社会課題の解決、美意識にはデザイン思考が有用であると考え、視覚的・技術的にクリエイティブでありながら、メッセージ性を含んだ作風を特長とする。また、作品に関するデザインや技術で数多くの特許を保有している。ドーセット氏の作品は、世界中で展示されているほか、ワールドテクノロジーアワードの「デザインイノベーション賞」や複数の「グッドデザイン賞」などの国際的な賞も数多く受賞。2017年には米国スミソニアン協会のクーパーヒューイット国立デザイン博物館による「ナショナル・デザイン・アワード」を受賞。同賞はプロダクト・デザイナーにとって最も名誉のある賞と言われている。また、昨年 Dezeen の Designer of the Year 2019 のファイナリストに選出され、Fast Company の Most Important Design Companies of 2019 を受賞している。

### マリラム・カマラ (Mariam Kamara)

建築家／アトリエマソミ 代表



ニジェール出身の建築家。2014年には建築・調査事務所「atelier masōmī」を設立し、公共、文化、住宅、商業、都市など幅広い領域のデザインプロジェクトに取り組んでいる。なかでも、スタジオ・チャハールとの共同文化プロジェクト「The Religious-Secular Complex of Dandaji in Niger」は、2017年の「LafargeHolcim Award for Africa and Middle East」金賞、2018年の「Global LafargeHolcim Award for Sustainable Architecture」銀賞を受賞している。米国ブラウン大学の非常勤准教授を務め、ロードアイランド・スクール・オブ・デザイン (R.I.S.D.) の建築評論家としても活躍している。人々に尊厳を与え、より良い生活を提供する空間を考案する上で建築家は重要な役割を担っている、という信念がカマラの取り組みの根底にある。2018年より、「ロレックス メンター&プロトジェ アート・イニシアチヴ」の下、デイヴィッド・アジ

ヤイ氏に師事し、2019年には、社会にポジティブな影響を与えているクリエイターを表彰する「Price Claus Award」を受賞しました。

## サビーヌ・マルセリス

デザイナー / スタジオ・サビーヌ・マルセリス創立者



ロッテルダムを拠点に活動しているオランダ出身のデザイナー。2011年にデザインアカデミーアイントホーフェンを卒業したマルセリス氏は、プロダクト、インスタレーション、空間デザインの分野で、素材性を重視したデザイナーとして活動を開始した。彼女の作品は、素材の特性を強調したシンプルなフォルムを特徴とする。

マルセリス氏は他者とコラボレーションする際には、自身の強い美的感覚を発揮し、素材の研究や実験を活かして製造工程にも関わることで、斬新な視覚効果を実現している。その取り組みは美術館での展示や、クライアントワーク、ファッションハウスとのプロジェクトなど多岐に渡る。

権威ある「Wallpaper Design Award」の Designer of the Year 2020 賞、「Elle Deco International Design Awards 2019」の Young Designer of the Year 賞、「GQ Men of the Year 2019」の International Artist of the Year 賞を受賞している。

## スプツニ子!

アーティスト / デザイナー / 東京藝術大学デザイン科准教授



インペリアル・カレッジ・ロンドン数学科および情報工学科を卒業後、英国王立芸術学院(RCA)デザイン・インタラクションズ専攻修士課程を修了。RCA 在学中より、テクノロジーによって変化していく人間の在り方や社会を反映させた映像インスタレーション作品を制作。最近の主な展覧会に、2019年「BROKEN NATURE」(第22回ミラノ・トリエンナーレ、伊)、「未来と芸術展」(森美術館)、2016年「第3回瀬戸内国際芸術祭」など。2013年よりマサチューセッツ工科大学(MIT)メディアラボ助教に就任し Design Fiction Group を率いた。現在は東京藝術大

学デザイン科准教授



